

特集：アセアン横断型グローバル課題挑戦的教育(TAG)プログラム

TAG パイロットプログラムに参加して —3/16 の旅行記—

陶山 舞（筑波大学 生命環境科学研究科 博士前期課程 2年）

16日はBelumから出発しGunung Jeraiで熱帯雨林の観察、そのちマレーシア科学大学で観察を行うという予定でした。Gunung Jeraiは標高約1200mの山で、我々の研究室があるのが標高約1300mの菅平高原ですので、親近感がわきました。1地点目は、横幅の広い川が流れる地点で、水は浅いですが、流れのあるところの落葉にはとくにブユが多くいました。他にもカワゲラなど水生昆虫を観察できました。周辺の地面の石をひっくり返しても乾いているところが多く、長く雨が降っていないことが感じられました。また周囲には食虫植物もありました。



水生昆虫を採集する

次に車で頂上へと向かいました。道路わきにはシダやコケが多く、水が多いときには小川のように流れるほどだという話でした。今回は2,3ヶ月雨が降っていないということで水は流れてはいませんでした。しかし、車を止めて調査した地点は、この旅一番の湿り気の多いところ！湿度の多い場所は様々な菌類が発生するため、とても楽しい場所です。樹皮に付着するコケや地衣類も多く、葉の上に生える葉上地衣も観察できました。



食虫植物（ネペンテス属）



出川先生の話に聞き入る学類生



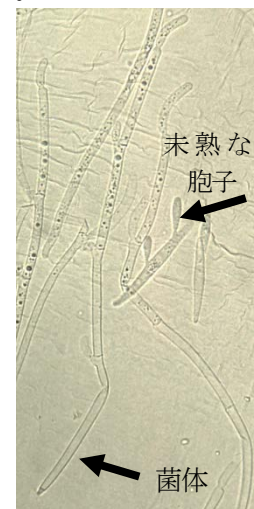
地衣類の付着した樹皮

マレーシア科学大学へ向かう途中、イスラムのお祈りの時間になったため立ち寄った場所でのこと。菌類はどこに行ってもおもしろいとは出川先生がよく言われることで、例えば、道脇の小さな花壇であったり、駅前のちょっとした植え込みでも多くの菌類が生息しています。少し時間ができるとどこでもしゃがみこんで観察を始めるのは日常茶飯事です。いきなりしゃがみこんで観察をする先生の姿に、現地の人々が一体どうしたことだろう？と遠巻きに見ていたことは印象的でした。

マレーシア科学大学に戻った後は、2日前にセットしたシャーレの観察、採集した節足動物の解剖・観察を行いました。土壌を置いたシャーレからはケカビ目菌が、ヤモリの糞をセットしたシャーレからは、アスペルギルス属菌が多く発生しました。ケカビ目など糖依存菌は短期間であっという間に成長します。また、節足動物の腸内菌も調べました。午前中に採集したブユからはハルペラ目菌が、さらにヤスデからはエクリナ目（現在は原生動物だが、もとは菌類として扱われていた）が観察できました。現地の学生も加わり、議論に花を咲かせました。



顕微鏡での菌類の観察



ハルペラ目菌

今日がマレーシアでの最後の夕飯ということで、メニューを見ても何かわからないものを頼んでみようと思い立ち、Air Asamという飲み物を頼んでみました。アッサムティーではないかという話も出て色もそのようでしたが、飲んでみたところ梅ジュースでした。また、この時食べた小魚の入ったナシゴレン（チャーハン）が一番のお気に入りです。マレーシア料理は、日本人の口に合うという話を方々で聞いていましたが、本当に何でもおいしくいただくことができました。

最後にこの研修プログラムでお世話になった方々に、お礼を述べ報告を終えたいと思います。ありがとうございました。

Communicated by Yosuke Degawa, Received April 18, 2014.